３つの目で見た郷土香川《第１３回》

～多度津紀行～

今回は、香川県西部にある JR 予讃線と土讃線の分岐している多度津駅に下車、この多度津は 1889（明治 22）年 5 月 23 日に讃岐鉄道が丸亀・多度津・琴平間に開通した四国鉄道発祥の地とされています。また駅前には少林寺拳法発祥のまちのモニュメントがあります。

多度津駅から徒歩約 10 分すると多度津町立資料館があります。ここでは多度津のゆかりの文化財、多度津京極家関係資料、近代の多度津の発展ぶりなどの資料を無料一般公開しています。そしてこの資料館の敷地及び美術・工芸品の一部は旧多度津藩士だった浅見家からの寄贈だそうです。この資料館で多度津の歴史や文化などの概略を学んだ後に町散策へと向かいます。

多度津町立資料館含む地域は、多度津京極家の藩士の住まいだった家中（かちゅう）は、今でもその閑静なたたずまいが残っており、大手門東門跡（下記写真右矢印参照）の南には、富井家（登録有形文化財／ 2006 年指定）、陣屋御厩（みまや／馬小屋）跡（左上２枚目写真参照）などがあげられます。そして多度津陣屋の御殿は、現存せず（下記写真左矢印参照）、現在は JR 四国・多度津工場が存在しています。

多度津京極家は、丸亀京極家第 2 代藩主京極高豊が庶子高通（たかみち）に、1694（元禄 7）年に多度津藩（1 万石）として分家されたことにより成立しました。ただ藩主屋敷（西御屋敷）は丸亀城西北にあって、藩の政務もそこで行われており、そして重要な政務は本藩の丸亀藩にならっていたようです。また多度津には 10 名ほどの藩士が常駐していたようであります。

1796（寛政 8）年に第 4 代藩主となった高賢（たかかた）は、家老林求馬時重による本藩の影響をうけない独自の政治をめざす 1 つとして、多度津御茶屋普請の提案を取り入れ、少なくとも 1807（文化 4）年には完成していたとされており、この御茶屋は別邸としての機能を持ち後の陣屋の中心となります。そして 1826（文政 9）年に高賢は、この御茶屋を住居と政務として丸亀城内西御屋敷から移転しました。

1827（文政 10）年に多大な労力と莫大な資金を投入して工事をしていた多度津陣屋が竣工し、その範囲は現在の大通りと家中一帯です。陣屋は城の新造を許されない大名屋敷であり、元来防御戦は考慮されていますが、天守閣、大規模な櫓

Copyright(C) 2012 香川県社会保険労務士会.All Rights Reserved.

や堀や城壁はないものとされています。

この陣屋建設で建築関係の職人が集まるなど建設ラッシュとなり、一般の消費も高まり、折からの金比羅参りの船や北前船の出入りも増加と相まって益々発展していくようになりました。またこの陣屋をきっかけに藩士と商人や領内の庄屋たちとのコミュニケーションも密接になるなどの予期せぬ効果も生じたようです。

多度津は江戸時代後期から明治にかけて、金比羅参りの交通の要衝であり、港と金比羅に続く交通網の整備がなされてきました。港は当初は桜川河口付近でしたが、町の機能が発展するに従い手狭になったため、1834（天保 5）年町内の問屋からの陳情を第 5 代藩主高琢（たかてる）の決断により、海岸部に多度津湛甫（たんぽ）の工事着工し、4 年後に完成しました。港に上陸した旅人は、現在の南北に続く本町通り（左上写真・備前屋（餅屋）／左上 2 番目写真・本町通りのたたずまい）を通りながら、金比羅参りへ向かったのでしょうか・・・。

桃陵（とうりょう）公園南麓にある多度津のシンボルの 1 つとされている少林寺拳法総本部、一般公開もされる「だるま祭り」は町の風物詩にもなっています。少林寺拳法は 1947（昭和 22）年、日本において宗道臣（そうどうしん）が創始した、教え・技法・教育システムによって、自身と勇気と行動力と慈悲心を持った社会で役立つ人を育てる『人作りの業』です。一人ひとりがまず頼りにできる自己を確立し、人間同士が援けあい、共に幸せに生きるための道を説いています（左上 3 番目写真／手前は仁王門　奥は鍛錬道場）。

桃陵公園は昭和天皇即位御大典記念事業として、1931（昭和 6）年に開園、1947（昭和 22）年に県立公園に編入、町民の憩いの場ともなっています。右写真は同公園にある「一太郎やぁい」の像は海の方に向けられていて開園当初からあり、日露戦争の丸亀第 12 連隊が多度津港からの出征の際に、『一老婆　一太郎やあい　鉄砲をあげろ　家の事は心配するな　天子様に克く　御奉公するだよ』というような出征美談として 戦前の国定教科書にも掲載され、その奉公記念碑として建設されたものです。

《参考資料》多度津町誌（本編・資料編／平成 2 ～ 3 年）
少林寺拳法公式サイト

Copyright(C) 2012 香川県社会保険労務士会.All Rights Reserved.

Copyright(C) 2012 香川県社会保険労務士会.All Rights Reserved.